

2022年9月26日
公益財団法人イオン環境財団

10月2日（日）第2期「第3回インドネシア ジャカルタ植樹」を実施 緑あふれる沿岸部の再生を目指してマングローブ3,000本を植樹

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社取締役 代表執行役会長）は、ジャカルタ市北部に位置するパンタイインダ カプック沼地において10月2日（日）、第2期「第3回インドネシア ジャカルタ植樹」を実施します。

当財団は、近年の都市開発の影響でマングローブから成る防災林の立ち枯れが問題となっている同地区で、周辺住宅地や高速道路を洪水などの災害から守るとともに、緑あふれる沿岸部の再生を目指して、2011年から2期にわたり植樹を実施しています。

第1期植樹は、2011年から3年間実施され、日本とインドネシアのべ5,100名のボランティアの皆さま共に63,000本のマングローブを植樹しました。

2018年からの第2期植樹は、第1期植樹地の隣接地で実施され、2年間で日本とインドネシアのべ2,000名のボランティアの皆さまとともに20,000本のマングローブを植えました。3回目となる本年は市民ボランティア300名の皆さまと共に、3,000本のマングローブを植樹します。

当財団は、豊かな自然を次世代に引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日時	2022年10月2日（日） 8:00～9:30		
場所	ジャカルタ市 パンタイインダ カプック		
本数	3,000本		
参加者	300名		
樹種	マングローブ		
主催	公益財団法人イオン環境財団		
共催	ジャカルタ首都特別州		
協力	イオンインドネシア、イオンクレジットサービスインドネシア、イオンモールインドネシア、イオンファンタジーインドネシア、イオンディライト(株)		
出席者	北ジャカルタ市	市長	マウラナ ハキム 様
(予定)	在インドネシア日本国大使館	大使	金杉 憲治 様
	イオン株式会社	執行役アセアン担当	岡崎 双一
	イオンインドネシア	社長	大杉 尚裕



第2期植樹（2018年）の様子



第1期植樹（2011年）から7年経過した現地の様子（2018年）

以上

【ご参考】

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社 名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。

以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4つの事業活動を中心に、活動に取り組んでおります。今後は持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組みます。

【イオンの植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。

当財団の植樹を含むイオン全体の植樹の累計本数は、1991年のスタートから数えて約1,241万本（2022年2月末時点）となります。

【当財団のインドネシアにおける取り組み】

■イオンの森づくり

【第1期ジャカルタ植樹2011年～2013年】

3年間で日本とインドネシアのべ5,000人が63,000本のマングローブを植樹しました。この植樹は、元インドネシア人口環境大臣エミル・サリム博士の「生物多様性みどり賞（現イオン生物多様性みどり賞国際賞）」受賞を契機として開始されたものです。

【第2期ジャカルタ植樹2018年～】

2年間で日本とインドネシアのべ2,000名のボランティアの皆さまとともに20,000本のマングローブを植えました。



第1期第1回植樹

■環境教育

【アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）】

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム」を2012年より実施しています。2022年までに10か国763名が参加しました。インドネシア大学は2016年から参加しており、これまでに46名が参加しました。

インドネシア大学が幹事校となった第9回（2021年）は「循環型社会の構築」をテーマに開催され、初の3日間のオンラインプログラムに、9か国88名が参加しました。



第9回ASEP

■パートナーシップ

【生物多様性みどり賞（現イオン生物多様性みどり賞国際賞）】
生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的に、国際賞・国内賞の2つのアワードを創設し、隔年で開催し、顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。

国際賞となる「生物多様性みどり賞」第1回（2010年）で、エミル・サリム氏が受賞しました。



第1回生物多様性みどり賞授賞式

【イオン環境セミナー】

アジアにおける地域社会の発展と環境人材の育成を目的とし、ビヨンドダイバーシティをテーマに、早稲田大学ならびにアジア各国の環境研究者、専門家と連携した「イオン環境セミナー」を2016年から4回実施しました。第3回（2018年）はインドネシア大学にて実施し、「SDGs+1アジアからの提言」をテーマに環境の専門家を交えた議論が交わされました。



第3回イオン環境セミナー